

所 報

一九八二年一月から十二月までの期間における社会科学研究所の諸活動を報告する。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1 第三九回定例所員総会（一九八二年六月十二日、神田校舎12 A会議室）

議事 (1)三輪所長あいさつ、(2)森下健三所員を議長に選出、

(3)新所員の委嘱、(4)一九八一年度事業報告、決算報告、会計監査報告——以上の諸報告を承認、(5)三輪所長あいさつ、(6)一九八二年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。

2 第四〇回定例所員総会（一九八二年十二月十一日、神田校舎13 A会議室）

議事 (1)三輪所長あいさつ、(2)高橋七五三所員を議長に選出、(3)事業経過報告および会計経過報告、(4)一九八三年度事業計画案および要求予算案を原案通り承認決定。(5)所長、運営委員（三部門）、事務局長の改選。所長に三輪芳郎所員、運営委員（総合理論部門）に佐藤博所員、同（現状部門）に石渡貞雄所員、同（歴史部門）に加藤幸三郎所員、事務局長に内田弘所員をそれぞれ選出。

(二) 所員・所外研究員の異動

第三九回定例所員総会に先立つ運営委員会の議を経て、つぎの一名の諸氏が新所員に委嘱された（五十音順）。

伊吹克己商学部講師、上田和男商学部助手、上村達男法学部助教授、大滝精一経営学部講師、大庭健文学部講師、菊地健三経済学部講師、佐藤恭三法学部助教授、武田昌之商学部教授、竹本達広商学部講師、三田晴義経済学部講師、吉岡健次経済学部教授。

また宮田三郎氏は一九八二年三月三十一日をもって、高橋長太郎氏は同年九月三〇日をもって、それぞれ本学を退職されたので、所員の委嘱を解かれ、運営委員会の議を経て所外研究員に委嘱された。

以上により第四〇回定例所員総会時における所員は一〇〇名、所外研究員は二三名となった。

二 研究活動

(一) 定例研究会

(1) 一月二日（火）生田図書館視聴覚室

「変動する中国——社研訪中団報告」報告者、三輪芳郎、二瓶敏、平川東亜各所員、田島俊雄、木幡文徳各教員。

(2) 七月六日（火）生田校舎新一号館第六会議室

「市場機構と日本農業」報告者 叶芳和氏（国民経済研究協会）、コメンテーター、玉城哲、二瓶敏、池本正純の三所

員。

(3) 一〇月二日(火) 生田図書館視聴覚教室

「ソ連農村見聞記(8ミリ映画上映)」報告者 三輪芳郎所員。

(4) 十一月二〇日(土) 生田社研

「宮崎義一著『現代資本主義と多国籍企業』をめぐる」

報告者 宮崎義一氏(京都大学)、コメンテーター 矢吹満男、室井義雄の両所員。

(5) 十二月一日(水) 生田社研

「イギリス留学雑感」報告者 泉武夫所員

(二) 合宿(集中)研究会

(1) 三月一〇(水) 神田社研 集中研究会

① 「一九二〇年代末のアメリカ自動車輸出」報告者 鈴木直次所員、コメンテーター 水川梢所員

② 「戦後日本の流通機構——卸売業の動向と経営革新」報告者 田口冬樹所員、コメンテーター 鶴田俊正所員

③ 「国家社会主義の理論——その比較研究」報告者 青木信治所員

(2) 七月二六日(月) ホテル・サン・シティ千葉 夏季合宿研究会

報告「京浜京葉工業地態調査」グループ

① 二瓶敏所員「戦後日本資本主義の地帯構成と首都圏」

② 大西勝明「低成長における生産・労働」

③ 柴田弘捷所員「京葉工業開発と漁民の対応——富津地区埋立と漁民社会の変貌」

(3) 七月二七日(火) 夏季工場見学、施設訪問

① 工場見学——川崎製鉄千葉工場

② 施設訪問——袖ヶ浦福祉センター

(三) 内田義彦・大友福夫両所員の聞き書き

両所員の聞き書き作業の準備および聞き書き作業は、二つのプロジェクト・チームのもとで進行中である。

(四) 社研プロジェクト

第三九回定例所員総会で、社研プロジェクトが「市場機構と政府・公共部門の役割」というテーマのもとに一九八二～八四年度の三年間に実施されることに決った。タイム・スケジュール、組織、権限と責任についての一般的なとりきめが行われ、現在までつぎのような活動が行われた。

(1) 七月六日 定例研究会との共催で、叶芳和氏の「市場機構と日本農業」の報告と討論。

(2) 七月二三日、神田社研、第一回社研プロジェクト研究会、報告者、新藤宗幸所員「行政と許認可権」

(3) 一〇月一九日 生田社研、第二回社研プロジェクト研究会 報告①吉岡健次所員「臨調・行革と財政——特に国と地方との関係について」、報告②上村達男所員「証取法における市場機能と規制の問題」

(4) 十二月二三日、神田社研、社研プロジェクトのテーマの

具体化と組織づくりの準備。一九八三年春に合宿研究会をひらいて社研プロジェクトのテーマの具体化とそれに対応した組織づくりを行うが、その準備作業が行われた。その結果、

第一部門 実態分析

第二部門 理論・歴史・思想

に分けて、共通テーマにアプローチしてゆくことが原案として決った。(なお詳細は定例所員総会資料、社研プロジェクト担当から出されている各種の連絡等を参照されたい。)

(五) グループ研究助成

一九八二年度は七件にたいする助成が行われた。(1)~(6)

は助成A、(7)は助成B。なおこの助成A、Bの区分規定については、第三八回定例所員総会資料を参照)

(1)「一二世紀に向けてのわが国経済・産業社会に関する研究」(吉家清次所員ほか8所員、一九八〇年度発足)

(2)「戦前期における六大紡の形成、展開過程に関する実証的研究」(加藤幸三郎所員ほか1所員、一九八〇年度発足)

(3)「国際経済学の諸問題」(作間逸雄所員ほか9所員、一九八一年度発足)

(4)「再生産論の現代的意義」(矢吹満男所員ほか8所員、一九八一年度発足)

(5)「地方都市の果す経済機能の理論的および経験的研究」(蔵下勝行所員ほか4所員、一九八二年度発足)

(6)「経済理論とリアリティ」(平川東亜所員ほか6所員、

一九八二年度発足)

(7)「へ生産力」と経済学史研究」(吉澤芳樹所員ほか2所員、一九八二年度のみ助成)

(六) 個人研究助成

一九八二年度は次の五件にたいする助成が行われた。なお、これらの助成にたいしては、交付年度より起算して原則として三年以内に、本研究所の指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課せられている。

(1)宮坂宏所員「中国新民主主義革命時期革命根拠地法制の研究」

(2)栗木安延所員「社会主義者橋浦時雄の思想と生活」

(3)加藤佑治所員「イギリスにおける日本企業の進出と労働問題」

(4)鈴木直次所員「大恐慌の研究」

(5)小沼堅司所員「民主主義と自由主義の思想的連関の研究」

(七)『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二二二号(一九八二年一月)

宮坂宏所員「中国社会科学院法学研究所を訪ねて」

二二二号(一九八二年二月)

平井俊顕所員「貨幣論」から「一般理論」へ(1)

二二三号(一九八二年三月)

栗木安延所員「アメリカ自動車工業の後退諸要因」

二二四号（一九八二年四月）

望月清司所員「生産様式の接合について・再考」

二二五号（一九八二年五月）

小沼堅司「過剰同調社会論の試み（上）」

二二六号（一九八二年六月）

森宏所員「不確実性、市場構造と価格パフォーマンス」

二二七号（一九八二年七月）

加藤佑治所員「イギリスにおける日本進出企業と労働問題」

二二八号（一九八二年八月）

水川梢所員「鉄鋼業におけるプライス・リーダーシップ」

二二九号（一九八二年九月）

森宏所員「流通と情報についての覚書」

二三〇号（一九八二年一〇月）

小沼堅司所員「過剰同調社会論の試み（中）」

二三一号（特別号）

内田義彦所員「大佛次郎賞受賞記念講演『作品』への遍歴」

二三二号（一九八二年十一月）

小沼堅司所員「過剰同調社会論の試み（下）」

二三三号（一九八二年十二月）

内田弘所員「特別剰余価値と相対的剰余価値」

（内田弘記）